

佐々醒雪 さささき 國文學者、俳人、文學博士。明治五年五月六日京都生れ、大正六年十一月二十日歿（八七—一九七）。本名政一、幼名虎丸。別號といせり、醒雪生、隣梅居士。明治二十九年帝國大學文科大學卒。在學中筑波會社に參劃。第ニ高等學校、山口高等學校各教授を經て、二十四年金港堂書籍株式會社に入り、雜誌『文藝界』編輯。二十九年東京高等師範學校教授、四十四年文藝委員會委員、大正三年『文章研究録』創刊主筆。

著書『連俳小史』（本名、明治二十

年七月五日大日本圖書株式會社）、

『無聲觸鳴』（合著・岩崎葉重編、

明治二十一年五月二十八日興雲閣）、

『うづら衣評釋』（本名、明治二十

二年十月七日明治書院）、『修辭法』（同、編、明治二十四年四月十

七日大日本圖書株式會社）、『近松評釋大綱』（同、明治二十四年七

月二十日明治書院「近代文學評釋」）、子ヨツケ作『大晦日』（補

明治二十八年十一月二十四日金港堂書籍株式會社）、『白露戰争寫真

帖』（合著、明治二十七年六月十日、第貳集、十月十日金港堂書籍株

式會社）、『俳諧講演集』（本名、合著・筑波會編、明治二十八年二

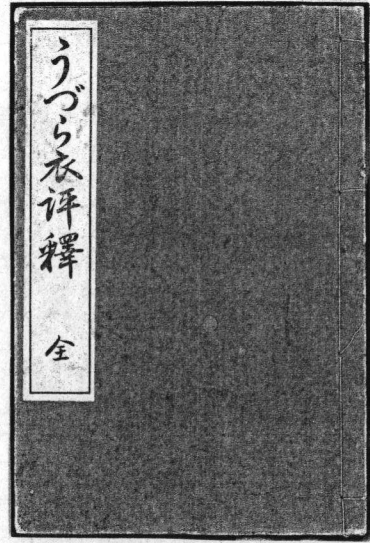
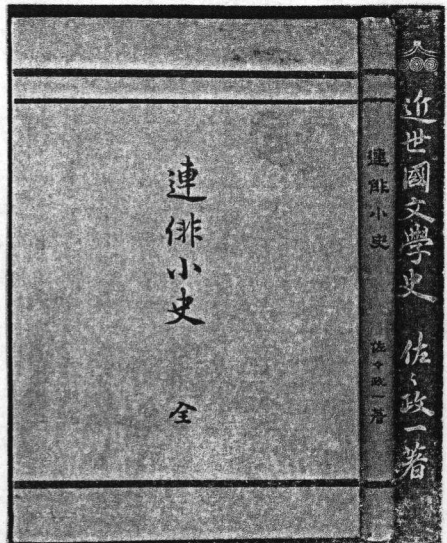
月八日金港堂書籍株式會社）、『白

本文學史辭典』（同、山内素行共編、

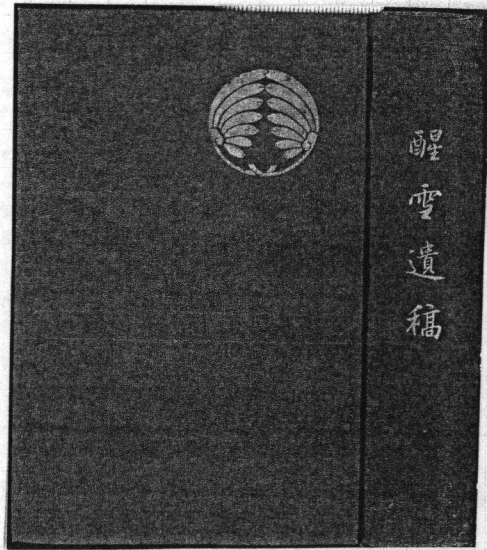
明治二十九年九

月十日金港堂書籍

株式會社）、



『俗曲評釋(第壹編)』(江戸長唄) (明治四十一年七月) 二白忠文
 舎)、 『近代古文選』 (本名、下村 茂、山内次郎共著、明治四十一年九月十日、
 改訂・四十三年一月十日新潮社)、 『むら雲』 (合著・大町桂月・
笹川臨風編、明治四十三年二月五日高有館堂)、 『日本情史』 (明
 治四十一年十一月二十九日新潮社)、 『中世文選』 (本名、鈴木暢幸
 共著、明治四十四年一月二十日新潮社)、 『近世國文學史』 (本名、
 明治四十四年七月六日聚精堂。再刊・大正十一年六月二十五日大陽堂
 書店)、 『新譯源氏物語』 (藤井紫影、沼波瓊音共著、一之卷・明治四十四年九
 月十五日、二之卷・大正三年五月二十日新潮社)、 『古今の婦人』 (合
 著・福島四郎編、大正元年九月十六日婦女新聞社)、 『趣味大江戸』
 (合著・江戸研究会編、大正二年十月二十四日大屋書房)、 『名家俳
 文集』 (巖谷小波共校訂、大正二年十一月二十六日博文館「俳諧叢
 書」)、 『近代文藝雜誌』 (大正五年一月二十二日青英書院)、 『國
 定俳句和歌通釋』(附俳諧入門) (附・大月隆伏筆記、大正五年四月一
 日青英書院)、 松風軒著『糸竹大全』 (紙 爲、大 怒、佐 爲、知 音之媒) (校訂、大正五年
 十一月二十二日くろは書房)、 『修辭法講話』 (本名、大正六年七月
 十五日明治書院)、 『謠と能のわび』
くろは (合著・能樂放談會「坂元雪、神田石
秋編、大正七年四月二日磯部甲陽
 堂)、 『註 解新譯徒然草』 (相馬明次
 郎共著、大正七年九月十五日大阪・
 博多成象堂「國文新譯文庫」)、 『醒
 雪遺稿』 (大町桂月編、大正七年十



二月十五日明治書院）、
『新書翰大鑑』（共編、大正十一年一月）
五日館文舎出版部）、
『連祿史論』（木名、昭和二年四月十二日大來
書房）等。